

をとらえることを目的とする。さらに、くり返し着用による型くずれへの、これらの影響についても検討を重ねる。

2. 格子模様の羊毛平織物を試料としスカートとスラックスをたて方向、よこ方向、ななめ方向に地の目を通して、すべて同一の標準体型に合わせて、同じ製図により製作した。構成時の変形量を、伸長変形、曲げ変形について実測した後、種々の動作をした時に身体各部位に生じる変形もとらえた。

3. たて地、よこ地、ななめ地では、動作時の被服変形量および変形部位に差が認められた。着用感も著しく異なり、織物の力学的異方性、特に、伸長特性が、被服の構成時、着用時の変形および着用感に大きく関係することが認められた。

B-46 被服構成時、着用時に生じる被服材料の変形について（第1報）
—地の目の異なるスカート、スラックスにみられる変形の実態—

奈良女大家政 ○山田 洋子
丹羽 雅子
古里 孝吉
金蘭短大 伊藤 紀子

1. 従来、被服を構成する時、たて方向に地の目を通すことは、縫製技術上の常識とされている。ところが、最近、織物のデザイン効果をねらいとして、特に格子模様などにおいては、地の目に関係なく、あらゆる方向に地の目を通して構成することが多くなってきている。そこで、本研究では、織物の伸長、曲げなどの力学的異方性が、被服を構成する時、また、着用していろいろな動作をした時の織物の変形にどのような影響をおよぼすか、その実態をとらえ、同時に、着用感におよぼす影響